

JP 54-63825 A

①日本国特許庁(JP)

①特許出願公開

②公開特許公報 (A)

昭54-63825

③Int. Cl.²
G 03 B 21/56

識別記号 ④日本分類
103 D 8

庁内整理番号 ⑤公開 昭和54年(1979)5月23日
6401-2H

発明の数 2
審査請求 有

(全 3 頁)

⑥放映スクリーン

35号

⑦出 願 人 菊地東次
東京都新宿区下落合3丁目12番
35号

⑧特 願 昭52-129680

⑨出 願 昭52(1977)10月31日

⑩発 明 者 菊地東次
東京都新宿区下落合3丁目12番

⑪代 理 人 弁理士 鈴木通夫

BEST AVAILABLE COPY

明 細 書

1. 発明の名称

投影スクリーン

2. 特許請求の範囲

- (1) 垂直方向面は大略直線状をなし、水平方向面は凹形の湾曲面を有する投影スクリーンにおいて、前方に所定角度傾斜させ、上記スクリーンの垂直面全体を水平方向に微細的な帯状体に分断し、これを湾曲面上に移動可能とし、かつ投影光が観覧者の位置に反射集光するように、上記帯状分割体の傾斜角度を連続的に変化させるようにした投影スクリーン。
- (2) 上記分割帯状傾斜面を有するスクリーン面と反対の面を形成した座屈ロールと直線状の平面を有する座屈ロールによつて無可逆性傾斜を機械的伝導機構し、座屈によつて生じたスクリーン面を引き延ばしてアルミ箔層を反射面とし、これを適宜大に切断し、左右面を凹形の湾曲面とした台板に貼着するようにした上記投影スクリーンの観覧態。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、特定の観覧区域内で、その区域外の周辺光の影響を受けないようにした、例えば水平方向に面を付与する凹面凹球状投影スクリーンの改良に関する。

即ち、投影スクリーン上の反射光を観覧者の方向に集光して、投影像の反射照度が高く、そのため明るい室内においてもスクリーン投影像を快適に観覧することができるようにした凹面凹球状投影スクリーンは、球の中心を観覧者の位置となるように設計されている。このようなスクリーンにあつては、たとえ映画の観覧者がスクリーンに正対し、下方から投影するような場合には、スクリーンの凹面状の球の中心を観覧者の位置より下方に向けると投影像を配設したいと観覧者の位置にスクリーンからの反射光が適切に集光されない。そのため上記凹球状スクリーンは、その上端を前方に若干傾斜させて一般に使用されている。このような傾斜位置に對し傾斜による空間を解放しようとする。